

令和3年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山中学校
校長 細見博文

1 学校教育目標

基礎力・思考力・実践力をもち、支えあい学びあう生徒の育成

2 今年度の重点目標

- (1)授業スタンダード(予習・目標理解・個人思考・集団思考・振り返り)を徹底するとともに、授業のユニバーサル化やGIGAスクールによる「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実する。
- (2)いじめ、不登校等に対して、即時即日で関係機関と連携した組織的な生徒指導・教育相談を充実するとともに、コロナ禍に対応した集団づくりなど人間関係形成・社会参画する力の育成を図る。
- (3)生徒・保護者・地域・教職員による四つの力委員会を核として、社会の糸口となる講演、地域貢献活動を進め、生徒の自治能力や社会参画する力を育成する。
- (4)一人一台パソコンによる校務効率化、バック・キャストイング(ゴールを精選し、逆算して計画)による教育活動、記録簿によりタイムマネジメント意識の向上を図る中で業務改善を進める。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	・「篠中授業スタンダード」に基づいた授業をしている。	A	「篠中スタンダード」に基づいた授業を全教科で進め、授業の流れに見通しをもって取り組むことができる生徒が増え、個人と集団の対話的交流による学びが深まった。
	・授業のユニバーサルデザイン化を図り、豊かな人間関係づくり等の育成に努めている。	B	ユニバーサルデザインの視点から、視覚支援としてICTを日常的に活用し、生徒の学習意欲が向上した。さらに、個別最適な学びにつながるICTの活用方法の研究を進める。
生徒指導	・不登校、問題行動等について、指導の方向の明確化と共有を図り、各自の役割を遂行している。	A	学期毎に行っている教育相談では担任以外の教師にも相談する学年担任制が進み、不登校生の対応も担任以外の教師が関わられるようにも取り組んだ。今後も、ケース会議を中心に支援体制を協議し、組織対応していく。
	・いじめアンケート、教育相談、QUテストを活用して、未然防止、早期発見・対応、早期解決をしている。	B	生徒の言動を観察し、適切な指導につなげることや、生徒とのノートのやりとり等の情報から、生徒情報の共有を図り、教師間・保護者と同一歩調での指導に努めることができた。いじめアンケートのWチェックなど、調査をさらに多面的に分析し有効に活用する。
地域ととも学校にづくり	・学校だより等の発行、ホームページの更新を通して、保護者・地域への広報活動を積極的に行っている。	A	毎日のホームページ更新や毎月の学校便りの発行など、生徒にかかる学校の情報を、適宜発信することができた。
	・学校運営協議会により、学校への意見聴取や社会の糸口となる講演等を積極的に実施している。	A	生徒会と学校運営協議会で、ルールについて話し合うことができ、生徒会の主体的な取り組みを進めることができた。外部から講師(BEET、田舎の窓、高木正勝氏、ニケローレ氏)を招き、将来に向け意欲を高める講演を実施できた。
業務改善	・「職員の申し合わせ事項」(特にICTによる業務改善を含む)を意識して職務を行っている。	A	コロナ禍でオンラインを活用するなど、工夫をしながら保護者、地域とのつながりをもって授業、学校行事を実施した。外部講師による教職員ICT活用能力向上研修や生徒へのタブレットによるアンケート調査も実施した。
	・あなたは、木曜日は定時退庁の日として、18:30までに退庁している。	B	ノー部活デー、会議の効率的な実施等の工夫など行っているが、コロナ禍や生徒指導の緊急対応のため定時退勤できない場合がある。事務作業の精選やタイムマネジメントをさらに進めることが必要である。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> ・指導の重点において教職員グループ別検証結果、教職員自己評価、生徒アンケート、保護者アンケートと様々な角度や面から検討されており感心した。 ・生徒の自治能力の育成については、四つの力委員会に参加させていただき、特に「学校のルールづくり」の時には素晴らしいと思いました。 ・内容について素晴らしいと思います。自治会長として感じることは、小学校に比べて中学校は地域との結びつきが弱く、地域で育てることが実践されていないように感じます。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> ・「篠中スタンダード」に基づいた授業を教科担当が意識して行い、その結果、授業の流れに見通しをもって取り組む生徒が増え、対話的交流による学びが深まったことは高評価できる。 ・相手の意見をしっかり聞きつつ、自分の考えを自分の言葉でしっかりと相手に伝える力を育成してもらいたい。ディベートのようなことを授業の一つに取り入れてみてはどうでしょうか。 ・生徒の地域の人との挨拶、コミュニケーション、表情には「あたたかみ」「やさしさ」を感じる。 ・働きやすい環境づくりが生徒にもよい影響となると考えます。業務改善をさらに進めてください。 ・コロナ禍で学校行事に多くの影響があったことと思います。多くの制限状態の中で、工夫をして行事を実施していただいたことに感謝します。課題に対して多くの成果をあげていただいている。よく努力していただいていることに敬意を表します。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「篠中授業スタンダード」の相互理解が深まり、多くの成果をあげている。 ・一人一台パソコンが導入されて今までにない授業の様子を見ることができました。ICTを中学生がきちんと活用できている。今後もICTの日常化により、個別最適な活用方法を見つけてもらいたい。使いこなせていない生徒がいないか気になります。 ・クロムブックを使ったICTを活用した学習の効果は高いと感じる。今後は家庭学習においても積極的に活用を進めていってはどうか。さらに充実したものになればと思います。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎の教育相談で、担任以外の教師にも相談する学年担任制が進み、不登校生徒の対応も担任以外が関わられるように取り組んでいることはよいことだと思う。校内で出会う生徒たちの表情がとても明るく感じました。よい指導をされているのではないかと思います。 ・不登校、問題行動等複雑化する現状に、教師の連携の元、生徒と親のさらなる指導強化を期待するとともに、今後日本を支える人材を育てていただきたい。 ・いじめ問題について親や学校との話し合いを確実にやり、役割分担のもと早期解決を図ることを望みます。生徒間のトラブルや怪我の対応速度の遅さを感じている。 ・SNSによるいじめの未然防止で生徒や保護者からの情報提供を依頼できればいい。 ・「あなたにはよいところがある」の質問に「あてはまる」30%台は低いように感じる。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンのホームページ毎日の更新や毎月の学校だより発行など、生徒に係る情報を適宜発信することはすばらしい。とても早く学校生活が分かる。 ・地域のつながりを意識した学校づくりができていますと思います。 ・防災時の取組について地域とさらなる連携強化を期待している。 ・ボランティア活動を多く望みます。 ・協議会の内容を各自治会長にどのように伝えるかを考える必要がある。 ・四つの力委員会は生徒たちのまっすぐな気持ちにふれる最高の機会でした。地域で接する以上に生徒の成長を感じた。コミュニケーションの取り方が中学生には難しいところがあるように思います。令和4年度も、例年と同様の目標で進めていただきたい。
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台パソコンによる校務効率化、バックキャストによる教育活動、記録簿によるタイムマネジメント意識の向上を図る中での業務改善を進めている。 ・永遠の課題である定時退庁に向けて努力をお願いします。よく頑張っていると思う。 ・コロナ禍や生徒指導の緊急対応のため定時退勤できない日があることはしかたない場合があると思う。今後は事務作業の精選やタイムマネジメントを進めるようお願いしたい。 ・オンラインの活用はもっと多面的に進めていけると思います。コロナ禍はオンラインを進めるチャンスであると思います。PTA活動にオンラインを入れてはどうでしょうか。 ・ICTは非常に有能な技術なので体系的に利用することが重要。その反面、有害な事案もあり、日本で起こっている格差、世界からの遅れ等伝える必要があると思います。 ・単なる退庁時間の問題ではなく、日々の業務の効率化が必要だと思います。そのために、明確な目標設定と進捗管理、正當に評価できるシステムが必要だと思います。

